

鉄筋コンクリート造建築物の 劣化と保存 シンポジウム1

2023年**3月29日** (水)

13:30 ~ 16:30 (開場13:00)

会場：沖縄県立博物館講堂

入場無料 (定員210名) 予約不要



— 沖縄における塩害を受けた建築物の修復と保存に向けた取り組み —

清村勉（1894-1985年）によって沖縄に導入された鉄筋コンクリート造建築物は、約100年の歴史を有する。台風やシロアリの被害が顕著な沖縄の建築物にとって、今や鉄筋コンクリートは沖縄を代表する構造形式といっても過言ではなく、一般的な建築物はもとより、文化財級の鉄筋コンクリート造建築物も沖縄には数多く存在する。一方、周囲を海に囲まれた沖縄において、鉄筋コンクリート造建築物における塩害問題は将来にわたって向かい合わなければならない課題である。このたび、鉄筋コンクリート造建築物の劣化と保存に焦点を当てたシンポジウムを開催し、この課題の解決に向けた議論の場とする。

大宜味村役場旧庁舎（国指定重要文化財）

プログラム

13:30 - 13:35 挨拶：西里幸二（特定非営利活動法人 沖縄県建築設計サポートセンター理事長）

13:35 - 15:15 話題提供（1人20分）

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|
| 1. 文化財的鉄筋コンクリート造建築物の保存の考え方 | ：西岡聡（文化庁 文化資源活用課 震災対策部門 文化財調査官） |
| 2. 鉄筋コンクリート造建築物の劣化と保存に向けた”学”の取り組み | ：崎原康平（琉球大学） |
| 3. 実務ベースにおける劣化した鉄筋コンクリート造建築物の調査診断と補修 | ：佐藤大輔（株式会社コンステック） |
| 4. 今帰仁公民館における調査事例 | ：今本啓一（東京理科大学） |
| 5. 鉄筋腐食したコンクリート部材の構造性能 | ：岸本一蔵（近畿大学） |

15:15 - 15:30 休憩

15:30 - 16:25 パネルディスカッション（上記話題提供者）
『文化財的鉄筋コンクリート造建築物の保存を考える』

16:25 - 16:30 閉会挨拶：西里幸二

主催：特定非営利活動法人 沖縄県建築設計サポートセンター 協力：アトリエ ネロ
後援：(公社) 沖縄県建築士会 (公社) 日本建築家協会沖縄支部 (一社) 沖縄県建築士事務所協会 (一社) 日本建築構造技術者協会九州支部沖縄地区会 (予定)
問い合わせ先：098-879-1020 / info@okiken.asia